

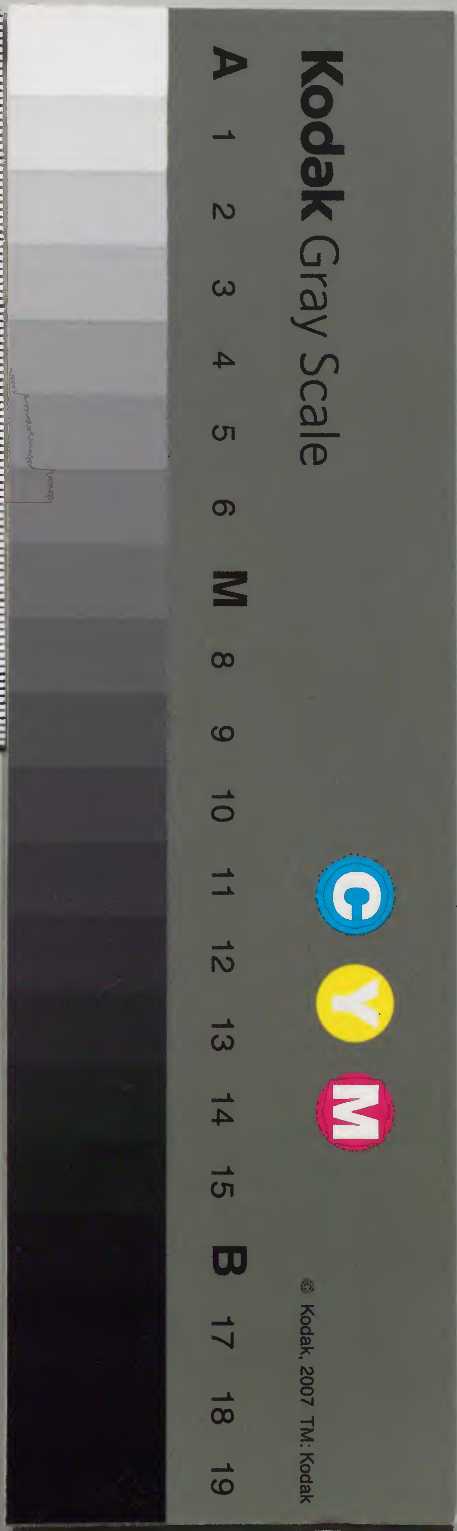
鷹谷小笠原

下

和書門	
二三四五六	類
三函架	冊

內閣文庫	
二三四五六	和書類
三函架	冊

內閣文庫	
番號	和 23456
冊數	3 ( 3 )
函號	154 299

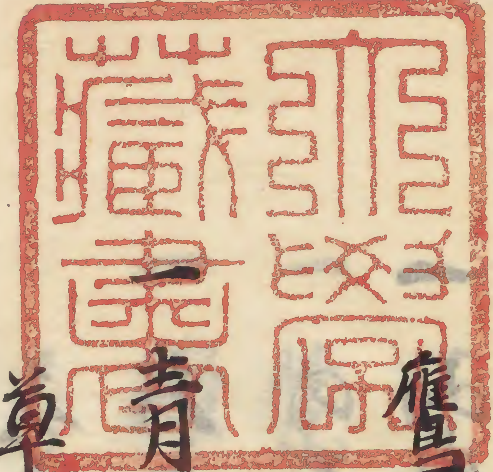




雁馬書卷之四

雁馬將取束之寸法

淺草文庫



青布を以て纏ハ八寸或花を以て纏ハ八寸又ハ六寸六分目

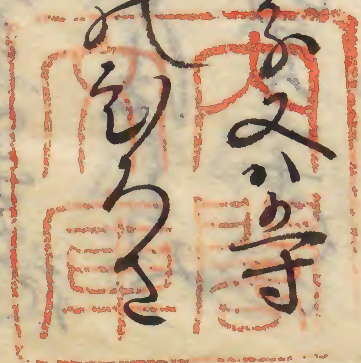
一 乃男一寸八分を以てきけひらりと一寸五分

一 ちりきさ乃ト七寸五分

一 兄布を以て纏ハ七寸或七寸二分又ハ六寸

一 ぬき目の男一寸ぬきさるきけを以て纏ハ

一寸五分のト五分五分







一 鶴ら下小襦帯此帯手ハ三寸或六寸二系花  
 びくハ襦帯より長一けす法よりみ  
 一 一くしとく一又の五寸目の方一寸を  
 一 三寸らさハ系より下ろす寸二子  
 一 何乃襦帯あてし若襦帯ハ寸長は山  
 一 久り赤黒皮襦帯也襦帯と若襦帯ハ  
 一 あり皮古襦帯より長一皮寸二寸は  
 一 の巻を生れ多め也  
 一 山襦帯ハ小襦帯大襦帯九寸二寸ハ襦帯

一 せきり襦帯と人仕方人む付寸也  
 一 紫皮こりん皮を介代也よは行を  
 一 綴帯ハ鶴白襦帯生帯より寸二寸也  
 一 ちこさハ錦唐物より寸三寸ハ  
 一 ちこを肉ハ打返してぬ也又襦帯  
 一 ちこれ紋を白くすぬ也又紋より寸  
 一 ちこよりハ何系より寸三寸ハ  
 一 ちこれ寸四寸也ハ穴とあめて寸三  
 一 ちこは也又ちこれハ寸三寸ハ



一白乃藥手ゆらむ此色紫より一なる  
しりしつゝの白ありて紫ゆらむ  
らうれの青家より外武家より  
白より

一生碧志を白碧とありてはつじふ  
とくはあり

一青碧を大緒の六尺守或六尺二寸の  
六尺の表丈五寸ひの乃と三寸の守  
皮のれあひ或は六尺の皮の黒皮也

一兄碧を大緒の六尺の守或六尺の守  
の表丈五寸むこれと三寸の守の  
一鶴已下小碧を大緒の六尺の守或六尺  
寸二尺の五尺の表丈三寸ひの守と  
又三寸の八尺の守の表丈三寸ひの守  
の守の皮は接のりし紫よりあり  
一碧地乃と然青碧を七尺の守見碧  
の六尺の守鶴の六尺の守二尺の守生碧を  
白碧を大緒の五尺より一尺の守也



一 青箱を以鈴板乃ち二寸二寸を摸  
ふ或七ふとをせとく

一 兎箱を以鈴板のち二寸二寸を摸  
ふ

一 鶴ら下小箱を以鈴板のち二寸八分を摸  
ふ

一 何七穴乃ち二寸とく

一 何七穴乃ち二寸とく

一 何七穴乃ち二寸とく

一 何七穴乃ち二寸とく

一 何七穴乃ち二寸とく

一 鈴板の象牙蛇くを以て麻の角  
より作る

一 鈴板の鉄板也

一 鈴板の鉄板也

一 鈴板の鉄板也

一 鈴板の鉄板也

一 鈴板の鉄板也

一 鈴板の鉄板也

一 鈴板の鉄板也

一 鈴板の鉄板也



一 鼠尾を糸よりするのせつよらじやるを  
一 白たねの袋を糸よりするの緒は紫足徳  
一 乃色も同前鈴交しじつさねは色うせ  
一 七折はさねをよりのこしぬらてん  
一 ころしー寸二寸八分ゆきーゆけい  
一 じつさねはありありーそいさろあり  
一 ともいさえてよらーさろらある  
一 白たねの袋を糸よりするの緒は紫足徳  
一 七折はさねをよりのこしぬらてん

一 多しひもき大人ありともゆきね  
一 じつさねのゆけいありーゆけい  
一 多しひもき大人ありともゆきね  
一 じつさねのゆけいありーゆけい  
一 多しひもき大人ありともゆきね  
一 じつさねのゆけいありーゆけい  
一 多しひもき大人ありともゆきね  
一 じつさねのゆけいありーゆけい  
一 多しひもき大人ありともゆきね  
一 じつさねのゆけいありーゆけい  
一 多しひもき大人ありともゆきね  
一 じつさねのゆけいありーゆけい



一 ちよらうしつらあーくろくーを  
 多ふしつまもろをいふははら  
 一 袋束式ゆららるるをいふははら  
 一 地ゆららるるは常の鶴より一甲  
 くみれ毛うしつろ又もかえれをいふ  
 角をいふは何と深き口はあり  
 一 将衣束乃糸ハ右丸よりくろく  
 一 式乃将衣束ハ巾ハうろくは思はは  
 糸はあり一之重し糸付の糸ありとあ

けしを鼠尾をいふは鼠尾  
 一 紐乃糸と云ふは山をいふは  
 一 糸とむらあはうてを付て  
 一 糸お袋束糸ハ糸ハ針のこと  
 一 糸を竹をいふは針をいふは



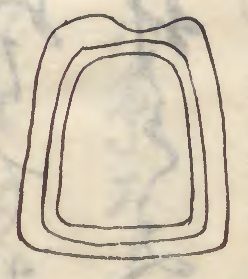
一 糸ハ鼠尾ハ糸ハ鼠尾ハ糸ハ鼠尾  
 一 糸ハ鼠尾ハ糸ハ鼠尾ハ糸ハ鼠尾  
 一 糸ハ鼠尾ハ糸ハ鼠尾ハ糸ハ鼠尾  
 一 糸ハ鼠尾ハ糸ハ鼠尾ハ糸ハ鼠尾



一 鳥冠將衣束ハ雉乃さうとがしう  
 をわうて終敷皮よわうでせしけ  
 観もろとくはとわうてとけし終板  
 よ切し鼠尾春ハ青系秋をいらむ  
 此系うそとく一ゆひむ尾う考れと  
 一 牛乳角外とわうて



一 裘毛將衣束ハ終敷うとくは中赤皮を  
 り一は上黒皮下乃とせむらう終敷  
 の毛と云ぬ所三不村一鼠尾ハ黒  
 皮うそとく又系うそとく一





一連雀将家東ハ鷄ヤマト将家東とていふ皮

をとうわらうてまんとや其尾とて

包と付くと又とて鷄式とて

をとりてとて金とてあしとて

又とてらんあしとてとて尾ハ

何とて系とてとて一とて鷄

とてとてあしとてとて

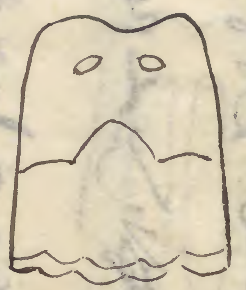
とてとてとてとてとて

一散り散りてとてとてとて

とてとてとてとてとて

とてとてとてとてとて

とてとてとてとてとて



一散り散りてとてとてとて

一乱将家東ハ鷄教ハ何とてとて

くれとていあてしとてとて

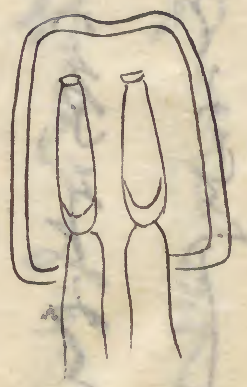
より下ハ系をとてとてとて

中ハとてとてとて或ハ鈴板金

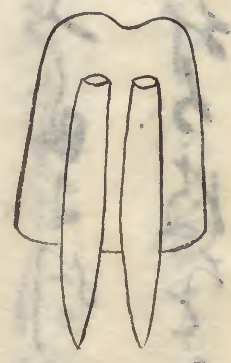
とてとてとてとてとて



一 毛を此の表裏の鈴板と南鼠尾は也  
 一 小將衣束のうつくさぬ表裏のうききり  
 ちりりしはし乃をきよきりし鼠尾ふ  
 ち皮は黒皮のうきりし小將衣のしきり  
 皮のうきりしは鼠尾の何とらうきり



一 のこきり將衣束の小ききりし鼠尾の皮は也  
 又てりしはしきりし鼠尾の皮は也  
 赤皮と鈴板のしきりし鼠尾紅きりし  
 一 小將衣束のうききりし鼠尾の皮は也  
 うききりし鼠尾としきりし鼠尾の皮は也





くしと鈴板乃うよおて鼠尾らき  
みせ也

一 包をおき繩のすはせりらる包と元三ひ  
ら切さ繩十八ひら或は元切らみら  
むらあとする也 書指をあらる包  
包を教へてけらる包とぞら  
すうとらうよおてらる包とぞら  
包をよけらる包とぞら  
とい二つのよせ一巻とい一つのよせ

一 包を筒のよせといす元或は元三と  
方よ元をあらあてらけ方とがくけり  
竹乃うとまきかに残してうらる包を筒  
まらしてよす

一 小籠をよけらると包ととも筒よ巻あり  
大籠をよけらると包と繩とも竹よ油  
うさる者也

一 包の七十のむら也  
大籠をよけらると包のすはせりらる包とぞら



二天の守りな準乃集ハ一尺八寸五分  
兄弟のれらハ二尺六寸或ハ二尺六寸五分  
鶴己下小巻のれらハ二尺二寸或二尺  
の寸二分御幣と表すゆゆひあら  
ち也をよかことかきくゆらつてゆひた  
ち也又のあささきゆさみそもゆらちら  
の右本さるれををまやともなえさくわさ  
たゆらつてこれよりなをといふことより  
なよらつてなをよげさのゆらちら

らち也或ハ大巻の小巻のたよ二尺八寸三  
分ちをすくゆらちをいふゆらち  
寸れらち也きりたるハさきもあせしち  
南あ乃巻ゆこころゆひもさふ巻を  
をらちゆあてさきゆらちこころ  
又いらく南の南ゆさきゆらちゆらち  
二尺六寸よきりゆらちあつハせせぬが  
らちを表すゆらち

一尺八寸五分ちち集ゆらちのちよ小巻



一 袴をとりゆる時のあらはれ者也

一 袴のゆけの緒ハ一尺の寸より一

一 一 袴ハ七寸五分或ハ六寸五分或ハ五分五分

五分五分ハゆけをとこしてゆけを

ととる程よき一尺五分の寸を

由るよき一尺五分の寸を

たはよき申りよきゆきけとてん

ちうじよきよき毛とゆきけ

とあきすうなり

一 解袋ハ五寸ハ寸或ハ七寸腰より下寸

上二寸也口四寸或ハ六寸二分ちう二寸鬼拳

四寸二分免身二寸二分腰皮一尺二寸腰と

二寸二分鶴のハちちちちちちちち

わりさうさうさうさうさうさうさう

将衣束麻の表目皮よき一尺一黒皮

よき免死を頼うらよきとととととと

ちうしちちちちちちちちちちちち

尺巻より一解袋衣の麻よ表目皮







一 せこせりつえきと 冥人めすじら  
うーニすわらてせうなわらうけ技と  
草押とりと或はうりけえ冥人一す草押  
ちうけのわひとめすをさそとこらと  
付合ーこれをとらうけとりふりけ  
えのせき或は残る乳のうけ又のせき  
大鯛のはえい目ととりたうりふり  
まきうりはえい乳のえとらせそと梅  
めしとく又の椿らとらまのふ柳とく

一 すくせこもけせさらくれひとせとす  
めふをが一入のすけとせといふの底  
けまうりや  
一 かけりたもけ冥人をさうニすめ合と  
冥人合して冥人ちすめをうてよりとら  
とてあやうと付合ーしうりけ  
をとらう合ー  
一 ちあうたせとせ冥人をめうりたせとす  
一 餅りたせとせ冥人をめうりたせとす



一 寸餘を以て寸のむを八寸と徳と云  
八寸より寸也

一 韻者れを二寸也也く口はあり

一 ぢら板れより一尺也也一尺二寸  
ひらさの寸也口傳

一 志のうされを二尺二寸板の二寸也

一 板を以てえれより二尺二寸山板を以てえれ  
を二尺の二寸一尺を以てえれ也也一尺と

一 一尺板を以てえれ

一 一尺緒袋れより一尺二寸より弦袋れと云

一 一尺緒袋三寸口のむらと云く何れ也

一 一尺乃繩乃より一尺八寸或は九寸云也

一 大唐より車のうれを以てえれ云云

一 米光後一尺一尺也也考より云

一 一尺一尺後虎雲と云唐人角卷と云

一 一尺一尺を以てえれ云云

一 一尺一尺を以てえれ云云

一 一尺一尺を以てえれ云云



又當家よこひる二入とあせり

一 ころもけよきとせそふすそい藤也とま

らたよけり也襪の者しすもたつてと

もくたけらふいととつり也

一 大か玲の女もくと平ヒラくすもよとおりけ

よあう物とそらも也

一 水筒も大さの守り一にりり也乃ととて

守り一の外もあもりよ乳と削して

人乃首よけ縄をととくして中かきと

かう一と乃らあすあり口乃とと節はる

よきとく一一口のうら中如中中か

に内の方他筒れこくと穴とあもてあお

入とく一是とらつて巻ふらと銅に

大銅けえ柳とけき割てととを

一 竹乃枝れおと皆らう一とあ

る

一 ちうちやう持家平れよ者ほくられとん

よととこく小袴とらよとことと











そし集を腰より下へ二番の餌袋  
をとりしるへ餌袋を打緒をこ  
きり足指を入緒を引おして緒を  
一まげあよとあ大指を入れて一よめて  
為歌を返しるへ口をよよりて  
かたへこあめてとてへ一為歌を  
一えう賞歌也あよとあ大指のあよ  
へて緒を大指を足へ入腰より下へ三  
番の集を大指をこきり右より一まげ

そり右乃乞さ式下へ引廻し終り  
ふを後へ一乞賞歌也緒を大  
緒をこきり一まげりあよとあよと  
とへ一上下より礼式をへ一緒を  
人の大緒をたてたて人より一ゆむ  
よ一巻よりあよとあ大指のあよと  
大緒をたて足袋をこきり一あ  
あて緒をたてあよとあ大指のあよと  
ら地大緒をこきりあよとあ大指のあよと



誓ふにあはれ兼て中をばはるて式礼は  
式礼しての時の右に方へのく  
け時三指の礼といふより又む  
言て礼あり口傳時之兼ハ後よ  
も何り乞む格也相後と人て  
いけありけりし志く誓ふと  
或の誓ふと何く志くハ  
わくしえ誓ふといふこと  
誓ふも志のしるごとく故実あり又上

一 等筆下筆此禮を後三  
此兼よ口傳又誓ふと云  
口傳

一 主人曰前乃主人(海をよ  
申すト丸後トといふハ  
志す之とけりし志くハ  
主人て海一兼を後よ  
てとせりけり

一 主人曰前乃主人(海をよ



一人よきさうし時の打付海一なる人  
 打付とくしといふ大踏をぬて人乃  
 前人多る付海をとりよ也  
 一 座敷多んかひしての積れし大踏と  
 下地とよおさじし一なるを志する  
 一 かくみしての肩の打多るおさじし一  
 一 勢多るし乃使はし時ならぬをゆひ  
 をとりらりよ入てゆひし勢積れ時  
 石にたももちりてぬるをうして強し

一 勢多るしなるなり刀と扇と勢多るしなる  
 勢多るしなるおさじしひき人あつて右  
 乃方らりなるしとるをよをき人此  
 一 前よはきなる後又よをるふ向む  
 けとるしなるしとるしなるし勢多る  
 前斗よよとつさるし一勢多るし  
 一 つかつこととすうし一はしつあ  
 じりし  
 一 勢多るしなるしなるしなるしなる



一 乃むえとて右乃よとけきいむを  
 ういおー先をううの羽よ葉をゆえ  
 手後北とて身とをえせと後  
 じふとえせゆーりーうと下を  
 わりもうちを尾よゆええせー  
 一 白をえとえすうのむをえとえ  
 中をいお右乃よとつとたりてを  
 多てえとくうええのゆ腰を  
 一 葉をとゆえ切目をえとえとけきいむを

一 なくえを後みるをけけと  
 ちのちよえ乃尾とて尾  
 式上葉と入尾をりあてえせと  
 後乃こくとえあゆーえをじ  
 手後と多とひえ人ありとと上を  
 り右とて何とむのうとて  
 ううのむをえとえとハれを  
 平をとうとゆえと礼よとす  
 一 白をえとえすうのむをえとけきいむを



一 是より一巻を居る人平人多りしと  
あはれなりつきあはるるにうじふを  
見よ後えらるを見おろしを  
あはれしと見よ後じふを思ふ  
方也則仁義礼知信也

一 けうひ巻と人よあはれし  
も綱(き)しと從ゆけ計(は)をらす  
又巻をとりしと一巻よ兼二巻よ  
餅袋三巻よ巻也个(も)人よ後

巻一 口傳

一 人よ巻をとりしと一巻よ兼二巻よ  
餅袋志餅斗をとりしと巻を  
よ六道具綱(き)しと一巻よ  
一 巻をとりしと人よ後しと  
く(り)右乃(も)はしと  
一 何故(も)後しと  
一寸あ(り)人折(る)しと右のゆ(き)二  
つめて後(も)也口傳



一 貴人御衣とらゆのよハ大統をらひさく  
しこふさともくあし也

一 赤もろろの御衣を策此切目ハ尾羽  
をよとすもろ一紫毛白赤御衣とを  
こくもろもて尾羽ゆめくもとを  
しん但生もろとらるるもろ

一 貴人御衣後しよの御衣の鬼ハ  
を統ハ赤と白もろしんたはたは  
乃到よもて後と也とらるるのち

御衣を此北取をとり一後と一右乃  
を御衣のちよ射てとらす也

一 ゆけをとらると一なよ海とらゆめ  
乃ゆとらゆとてたはよとゆけ  
拾うれをとりて海と也

一 ゆけとあらと一なよ海とらゆめ  
乃中御衣をたらののよれよと玉あら  
中御衣をゆけ乃よよ玉をさくもろ  
御衣をとりとらよよ持て後と也



一 鷹山同よからる時をわすれ兼とあて  
るものなり

一 鷹山後と時をわすれ兼とあて  
兼餅袋鷹と次守して海とく  
後と時をわすれ兼とあて一礼  
忘て退くへ

一 鷹山とえさる時時次と人礼を忘  
ゆるわらう時をわすれ兼とあて一礼  
忘て退くへ

一 却て此兼とよすわら 鷹と人礼  
を乃時おとす 礼と思ふ時ひつら  
をわすれ兼とあて兼とあて  
をわすれ兼とあて兼とあて  
持てよえ此兼とあて兼とあて  
をわすれ

一 昔存を春日日名代きこえとて  
拾付を二枚はくして至院の御宇に原  
政頼で次より次危をわすれ兼とあて



又さしすも也と尾不名をとりも奪  
此尾をけりもす句一也傳

一十三すい尾乃名を志ま尾とりすあま  
尾の名を志まぢり尾とり也

一 餅袋よるすすすすもをささす  
り也雄の山緒をとらてとらりの人  
よりすすにえつくりすす也祝言の  
時古雄雄ニツすすすす何れす所  
餅袋よるすす也

一 又とれえすすすも春夏ハ雄秋冬ハ雌と  
すす也と思ひはすすり也又之節  
よ青存すハ雄兄存すハ雌をすす  
是後湯如念也又餅袋よるすす  
をと思ひはすすり也すすす  
却後と時古餅袋よるすす  
と一餅袋よるすすすす餅と  
て後と也又とれえすすすす雄乃  
はすすを後方へりすすハ股と



おのすのすすをいけんをむうら  
を我も入じらんをうらうと  
じらんをむうと合くさるる  
陰陽せらすすといけん  
うらをいけんをうらうと  
とけんもとうらう  
一 鴨も内じらんをうらを我  
けけんをうらうとけん  
是とけんけんけん

一 鴨も何とあけんをうら  
けんけんけんけんけん  
けんけんけんけんけん  
けんけんけんけんけん  
けんけんけんけんけん  
けんけんけんけんけん  
けんけんけんけんけん  
けんけんけんけんけん  
けんけんけんけんけん  
けんけんけんけんけん



- 一 鶯も此もあはれ馬の面はねをみれば
- 一 古歌とあはれとをみれば一 踏むハ歌を
- 一 近下ハ先ハ後足をとる一 口傳
- 一 鶯乃をを山目よ急る所ハ飼はれ
- 一 月女をと命一 枝露の付と目赤
- 一 鈴子さすり春乃もの也といふ此時
- 一 のすこころをさしてしをさるるよ
- 一 して山ハとくあり一
- 一 といふハ春之移り雲雀ハ去也若草ハ
- 一 秋也若草は道よ是を司ゆ
- 一 架よぬらゆけおらるよ非義ハ道
- 一 うい海りてあはれゆかり
- 一 鶯よあ吹吹守りく楊枝をけいひに
- 一 をすれば先あはれよりえらり一ふ
- 一 さんまりくあはれくあはれ海り
- 一 手後くあはれくあはれ一
- 一 鶯野ふて貴人ハふを養者下りよ
- 一 名もくれえんらる若也



一 獲野みそた日日獲れり昔より  
 獲る人あり獲れりといふも畜家み  
 わるもそ是をいふる也そ故い畜  
 およおほるふより如此也眼指を所目  
 よるゆゑに地はうらうらうらう  
 一 今世より子といはせらるる也そ  
 子といふはつとつ或ハ厚或ハ薄  
 下是をいふといふ  
 一 貴人乃獲ると我もといふは

名あるもたれた事とさほ人乃獲るも  
 い右乃方と我獲るよふなり  
 一 鶴なるけり色くわらうと傳  
 一 女をといひしつゝの獲るをそらう事  
 是くもわら時いらむをそとられ  
 えて引ある石此よめははらといふ  
 とも打色とらう也 想して立進め  
 さしくいふんうらはは合也幸り  
 女よわらうらうらうらうらうら



一 なるをいふまをいふすといふは  
さういふは縄をいふまをいふ  
一 なるをいふまをいふすといふは  
春の柳 夏の桐の葉 秋のうぐいす  
冬もたもたをいふまをいふ  
とりていふまをいふすといふは  
あるまをいふまをいふすといふは  
著のありていふまをいふすといふは  
のまをいふまをいふすといふは

て飯をいふまをいふすといふは  
その後をいふまをいふすといふは  
一 けうまをいふまをいふすといふは  
うまをいふまをいふすといふは  
うまをいふまをいふすといふは  
うまをいふまをいふすといふは  
うまをいふまをいふすといふは  
うまをいふまをいふすといふは  
うまをいふまをいふすといふは



より二変し海を時分らんを先後  
功んをたは後とて一終るのめんを  
先よとてすく一又可とて時分  
よりて後とをじよよ并るる後  
をゆ一是の何とて即よよとてん  
をめんを貴族乃有也

一 存心志つあく大和集筆跡のりら  
こをといふとあらくはさわらひけ  
をんをかむう一此のふとよる一存

一 存心志つあく大和集筆跡のりら  
こをといふとあらくはさわらひけ  
をんをかむう一此のふとよる一存

一 枚原のあハ口を流るくすも也存心志  
初よぬとあらよとて一又流らよぬら  
よの餌をよゆり

一 存心志つあく大和集筆跡のりら  
こをといふとあらくはさわらひけ  
をんをかむう一此のふとよる一存

一 存心志つあく大和集筆跡のりら  
こをといふとあらくはさわらひけ  
をんをかむう一此のふとよる一存



一 應仁元年丙午己未本命日とて大よあ

し并二月乃應仁のし三月辰酉

る七三月の戌四月の未六月の卯六月

の子七月の酉八月の午九月の寅十月の

亥十一月の卯十二月の辰とて未の凶念

乃日とて應仁也いふる急さるる

所ふる

一 應仁とて應仁よみとて申し應仁と

あむ内へゆりて架よ大結と此る

紙よ賦と書て大結たふと此る

二色架よ前よ至心經三巻と

の文七五とて又尋よ

これる此のしと此をとりと思ふ

まのしりるるるるるる

右いふとらみく相右賦と書ら紙と

大結乃切らふとて餅合子の入理也

以後肩衣とてふらけてを此とらむ

の此もふらむるるるるる

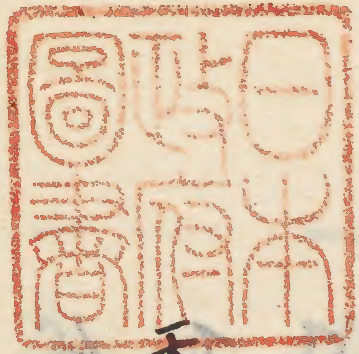












右一卷者雖為當家秘術書依不洩  
御意存口傳等每孫令傳授畢蓋不  
顧外口欵且非其仁可被禁視洩者也

小笠原備前守

天正元年九月七日

政清

伊藤又右衛門尉

天文七年二月八日

宗家

伊藤彦次郎

天正八年六月三日

正家

伊藤孫兵衛尉

法名桃卷法服茶竹

宗秀

伊藤新右衛門桃卷

寛永二年八月十日





右一卷者... 御志... 顧非... 大正九年...



大正九年六月三日



針刺... 針刺... 針刺...



